阿南高校だより ② 阿南花ブログ 6-7月②



自然の涼風を感じる「イワタバコ(岩煙草)」

2024年7月11日



大下条から新野の向かう途中の国 道から、ちょっと沢沿いに入った湿っ た日の当たらない岩場にタバコのよ うな形の葉の植物が、この季節(7月 上旬)、星型で紫色した小さな花を咲

かせています。「イワタバコ(岩煙草)」です。

写真からもお分か りのように、茎がほと んどなく、岩場の根本 から1~2、3枚の大 きな葉を広げ、その葉 から細長い花茎(かけ



い:葉を付けず花だけをつける茎)が伸び、うつむい



た数個の花を付ける、とても風変わりな山野草です。花をつけないとこんな感じで、岩から葉がへばりつくように生えて見えます。

NHK の連続テレビ小説「らんまん」の主人公で、「日本植物学の父」とも呼ばれた牧野富太郎 博士が、この「イワタバコ」を愛したと言われてます。 今日は朝から雨が降り、その雨の雫が葉や花から滴り、涼しげで美しい雰囲気を醸し出しています。

「ギボウシ(擬宝珠)」

2024年7月14日

過日紹介した「イワタバコ」の群落に混じって、 葉や花も大型の「ギボウシ(擬宝珠)」が咲いてまし



た。こちらも強い日差しが苦手で、 沢沿いの半日影を好むようです。 花茎を高く伸ばし、薄青色のラッ パ状の花が、下から徐々に咲いて いく、庭先でもよく見かける植物

です。庭先の方は こちらよりかなり 大型で、また、葉



に白っぽい斑が入ったものもあり等、 亜種や変種も多いようです。花の蕾 (つぼみ)が、橋の欄干や神社・寺院 の階段の手すりの上にある、玉ねぎの

ような形の装飾物=擬宝珠 (ぎぼうじゅ) に似ている ことからこの名がついたそうです。

「オニユリ(鬼百合)」

2024年7月17日

今日は朝から隣村の泰阜中の進路講話に行ってきました。道中の道路脇の土手や泰阜中前のロータリーの花壇にヤマユリが咲き、周辺に百合の甘い芳香が漂

わせています。先日も阿南高校敷 地内に咲いたヤマユリを紹介し ましたが、このヤマユリの群落、 本当に見事です。



そんな中、オレンジ色の百合の「オニユリ (鬼百合)」が負けじと咲いていました。とても目立つオレンジ色の花びらが、大きく外側にそり返り、下向きに



咲く姿が、赤鬼を連想させることから名付けられました。ヤマユリと比べると、ヤマユリほど大型で花付きもそれほどでないためインパクトは強く感じま

せんが、他の花に比べれば十分豪華な花姿です。 一部の地域では、オニユリが咲くと豊作となると信じられ、昔より農家の間で大切にされてきたそうです。そういえば、庭先ではヤマユリよりもオニユリの方を良く見かけます。そのせいかもしれません。また、鬼を連想させる花姿より、オニユリを家に飾ると悪霊を追い払うとも言われてきたそうです。 オニユリに似た花に「コオニユリ」がありますが、違いは、一回り小さく、葉の付け根に黒っぽい"むかご"を作らないそうです。写真の花の葉の付け根(写真を拡大して見てください。)には黒っぽい"むかご"が見えますので、こちらは「オニユリ」ですね。 茶碗蒸しによく入っているホクホクした食感の"ユリネ(百合根)"は、オニユリやコオニユリの球根(=鱗茎)です。庭先でオニユリを見かけるのは、このためかな?

「シデシャジン(四手沙参)」

2024年7月22日



キキョウの仲間だそうですが、 似ているのは花の色だけで、花び らはご覧のように細長くそり返り 特徴的な花です。下條村の陽皐近 くで咲いているのを見つけました。 頭の「シデ」は、神社のしめ縄な

どにヒラヒラと飾られている白い紙=「四手(シデ)」

阿南高校だより இ 阿南花ブログ 6-7月②





のことで、以前シデがつく植物「シデ コブシ」をブログで紹介しましたね。

シデの下の「シャジン(沙参)」は 何なのか調べてみると、根がツリガネ ニンジン(ツリガネニンジンの生薬名

=沙参)に似ていることから「シデシャジン」と名がついたそうです。

「ヤマホトトギス(山杜鵑草)」

2024年7月25日

白地の花びら(花弁)に紫色の独特な斑紋が、鳥のホトトギス(不如帰)の胸の模様に似ていることから、「ホトトギス(杜鵑草)」と名のついたホトトギ



スの仲間です。花びらが下にそり 返るのが「ヤマホトトギス」だそ うですが、似た仲間に「ヤマジノ ホトトギス」もあり、もしかした らそちらかもしれません。

次の写真のような、紫色の斑紋

が多めのものもありました。

それにしても、このホトトギス (の仲間)の花は、色だけでなく 形も複雑ですね。花の中心から太 い柱が立ち、その先端にめしべと おしべが放射状に広がっていて、



2024年8月1日

2 段重ねの花のようにも見えます。おしべは 6 本 (紫 の斑点がないもの)、めしべは 3 本 (花びらと同様、紫の斑点があるもの)です。 今回の花は、先日紹介した「シデシャジン」と同じく、下條村の陽皐(ひさわ)の吉岡城址近くで見つけました。

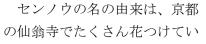
ひときわ目立つ「フシグロセンノウ(節黒仙翁)」



クッキリと鮮やかな朱赤色 (オレンジ色)で、まるで作り 物のようなよく目立つ花です。 それほど大型の花ではないので すが、車で走っていてもとても

目がつく花です。 下條村陽阜(ひさわ)の吉岡城址付近で見つけました。 ナデシコ科の多年草で、8月から秋にかけ、茎の先端に大きさ(花径)5cmほどの花びら5枚(五弁花)の花を咲かせます。オレンジ色の花は日本の山野草の中でもかなり珍しいですね。

フシグロと名がついたくらいですので、茎の節が黒いのが特徴です。





たことからの説と、または、中国原産の「センノウ(仙 翁) 」に似ているとの説があるそうです。

葉なき優雅な花「ナツズイセン(夏水仙)」

2024年8月21日

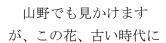
日中はまだまだ暑い日が続いておりますが、季節はお盆も過ぎ秋の虫が鳴き始める8月下旬、優雅で繊細な淡いピンク色の花が咲き始めました。夏の風物詩でもある「ナツズイセン(夏水仙)」です。



スイセン(水仙)と名 がついていますが、スイセンの仲間ではなくヒガン バナの仲間(ヒガンバナ 科)です。葉が水仙に似て おり、夏に咲くことから名

がついたようです。 このナツズイセン、ヒガンバナ (彼岸花) のように花が咲く時葉がありません。そして、淡いピンク色の花は百合の花にも似ていることから「ハダカユリ(裸百合)」と呼ばれることもあるそうです。葉がなく細長い花茎の上に数輪の大型の花が

咲き、バランス的も不思 議な花ですね。





中国からわたり、人家の庭先で栽培していたものが野生化していったようです。この写真の花も、(阿南町大下条の)もと屋敷跡と思われる石垣のある空き地で見かけました。ヒガンバナと同じく**三倍体(※)**で、タネは作らず土の中の鱗茎(球根のようなもの)で増えていきます。また、このナツズイセン、美しい花(植物)を咲かせますが、植物全体が有毒ですので、(ニラと)間違えて食べないように。(ヒガンバナカ、スイセンも有毒植物です。)

※ 三倍体:通常の生物は父親由来と母親由来の染色体を2セット持つ二倍体ですが、3セットもつ個体を三倍体といいます。 (突然変異の一種です。) 秋に咲く「ヒガンバナ」(別名 曼珠沙華)も三倍体です。